

2008年3月10日

各位

双日株式会社

双日、モザンビーク初のチップ輸出基地を建設
～ 南アフリカで植林地を運営、日本製紙向け 10 月輸出開始 ～

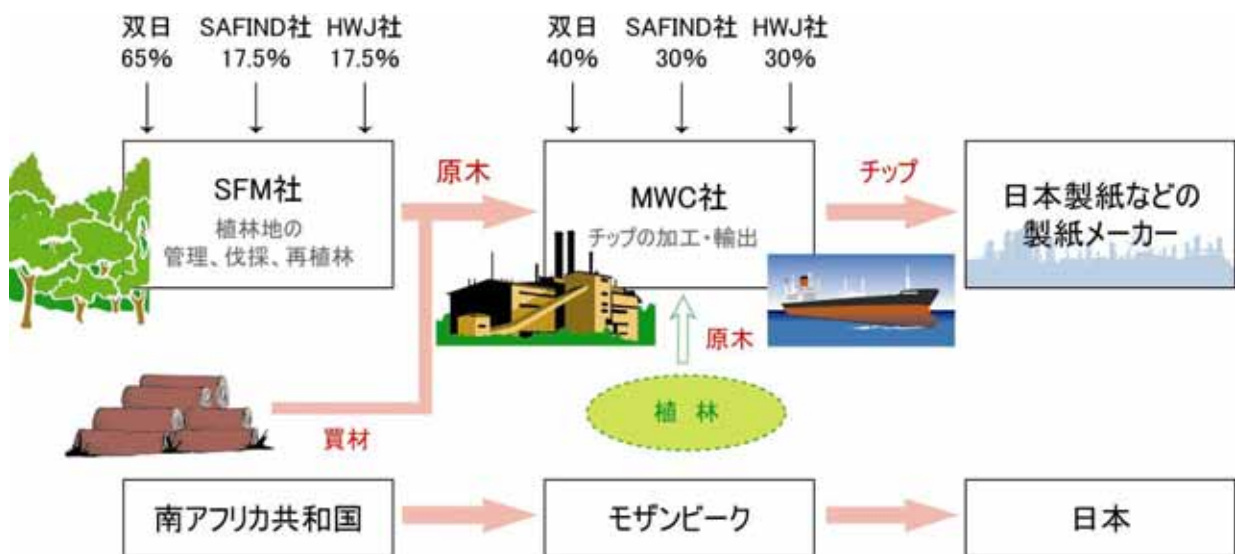
双日株式会社は、南アフリカ共和国の企業と共同で、モザンビークに製紙原料となる木材チップの加工・輸出を行う合弁会社を設立し、アフリカ地域での植林事業に参入します。モザンビークにチップ加工工場が建設されるのは初めてのことで、チップの原料となる原木は隣国の南アフリカ共和国で植林地を買収し確保します。植林地の運営からチップの輸出までの一貫事業を手掛ける本プロジェクトの総事業費は約 27 億円で、双日はそのうち約 15 億円を負担します。

双日は、本プロジェクトに南アフリカ共和国の企業で、原木販売を行う SAFIND 社 (SAFIND Forest Products (Pty) Ltd.) および HWJ 社 (HWJ Wood Chips (Pty) Ltd.) と共同で取り組みます。三社は、まず、2008 年 3 月中にモザンビークの南端に位置するマプト市に、チップの加工・輸出を行うマプト・ウッドチップス社 (Maputo Woodchips, Lda. / MWC 社) を設立します。MWC 社の資本金は約 3 億円で、双日が 40%、SAFIND 社が 30%、HWJ 社が 30% を出資します。MWC 社は、2008 年 8 月にチップ加工工場を稼働し、10 月末には日本製紙向けの輸出を開始する予定です。

さらに、三社は、チップ原料確保のため隣国の南アフリカ共和国に植林事業を行う双日フォレスト・マネジメント社 (Sojitz Forest Management (Pty) Ltd. / SFM 社) を設立します。SFM 社の資本金は約 5 億円で、双日が 65%、SAFIND 社が 17.5%、HWJ 社が 17.5% を出資します。SFM 社は、南アフリカ共和国北東部のムプマランガ州にある約 1 万ヘクタールのユーカリ植林地を買収し、管理、伐採、再植林を行い、チップ加工・輸出を行う MWC 社に安定的かつ持続的な原料の供給を行います。また、2008 年内に FSC 森林認証を取得すべく所定の手続きを行ってまいります。

植林事業を行う SFM 社は、年間 36 万立方メートルの原木伐採を計画しており、伐採後は再植林を行い、7-8 年後に原料として再び使用します。チップ加工・輸出を行う MWC 社は、SFM 社から産出される原木で賄えない分の原料を他原木販売会社からの買材で補い、年間 20 万トンのチップを生産し 26 億円の売り上げを見込みます。また、将来、モザンビークでの植林事業も視野に入れ事業化調査を進めてまいります。

双日は、これまでにベトナム、豪州でも植林事業を行っています。特にベトナムでは四つのチップ加工会社を保有しており、これらの合併会社を通じてベトナムの無立木地に、約 26,000 ヘクタールの森林を造成し、年間 50 万人の雇用を創出し、30 万トンのチップを生産しています。この事業は、合併会社による大規模な企業有林経営ではなく、農民への融資、事業リスクと利益のシェア、苗木の無償提供などを通じて、農民世帯や農民グループを林業経営者に育てることとなります。ベトナムで培った「持続可能な産業体系や社会基盤の実現」を考えた双日のビジネスモデルをモザンビークに定着させることを目指します。



【モザンビークに建設するチップ輸出基地（マプト・ウッドチップス社）】



【南アフリカ共和国で運営する植林地】



【植林地から伐採される原木】

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03 - 5520 - 3183